

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	東海大学
事 業 名	スポーツ医学と運動器を中心とした先端医療国際リーダー育成プログラム
事 業 責 任 者	東海大学大学院医学研究科研究科長 秦野 伸二
事 業 の 概 要	
<p>超高齢社会の今、ロコモティブシンドロームに代表される有病率の高い運動器疾患群に対する新規治療法の開発が喫緊の課題である。また、健康寿命の延伸のための生涯スポーツ、スポーツ医学の発展も欠かせない。本学は運動器の基礎的研究業績、特に世界初の軟骨細胞シートによる再生医療、椎間板内幹細胞の発見とその臨床応用において世界を牽引し、2020 年には大学院医学研究科に運動器先端医療研究センターを開設した。本事業においては、その枠組みを軸に総合大学の特色を活かし、本学総合医学研究所やウェルビーイングカレッジ（スポーツ医科学研究所、体育学部等）と連携し、「総合臨床研究センター」の拡充によって運動器を中心とした先端医療の国際共同臨床研究を推進する。そして、「先端医療国際リーダー育成プログラム」によって運動器を中心とした先端医療を担い、かつ国際感覚に溢れる医師・研究者の次世代リーダーを育成する。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○運動器先端医療研究センターを有し、ユニークな研究の展開が期待できる。</p> <p>○体育学部/健康学部や海外施設との共同研究によりスポーツ医学・運動器領域における国際レベルの臨床研究に関する実績を有する。</p> <p>○運動器医療に関する医学部生への早期学習、大学院生の増加など人材養成が図られている。</p> <p>○論文数、研究時間、競争的資金、治験実施数の増加など具体的な数値が設定されている。</p> <p>○大学として診療参加型臨床実習の充実が図られている。</p> <p>○拠点大学として必要な役割を果たしており、国内外の施設との連携が図られている。</p> <p>○スタッフ支援センターを設立するなど、医師の働き方改革に向けた対策が行われている。</p> <p>○運動器先端医療研究センター等の学内の複数の部署により有機的な運営体制が構築されている。</p> <p>○事業終了後も臨床研究の推進、人材育成を継続する計画である。</p> <p>●専門人材雇の経費と比較し、人材育成に必要な TA や医学生 RA の経費が少ない印象がある。</p> <p>●リーダー育成プログラムをより具体的に示すことが望ましい。</p> <p>●RA として参画する学生数が少ない印象がある。</p> <p>●診療参加型臨床実習の充実を果たす本事業の役割が不明確である。</p> <p>●医師の働き方改革における本事業の役割が不明確である。</p> <p>●事業終了後の財源確保に向けた具体的な方策を示すことが望ましい。</p>	